

9 環境教育



1 環境教育の現況と課題

環境教育は、人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会の創造に主体的に参画できる人の育成を目指すものです。

今日では、学校・地域・NPO・企業・行政による環境教育の取組が活性化しています。特に、各主体が協働して行う身近な地域の特性を生かした学習が進み、体験型学習や地球規模の視野に立った学習も広がりつつあります。学校では、体験を重視し身近な環境や地域に眼を向ける環境教育が、「総合的な探究の時間」及び「総合的な学習の時間」や各教科等で取り組まれています。また、企業においても、環境マネジメントの視点から環境教育に取り組んでいるところもあります。市町村でも、生涯学習講座等で環境教育や指導者育成等を行っており、ボランティア活動・NPO活動等地域の行動へと広がりつつあります。

県では、これら各主体の環境教育・環境学習をさらに進め、「持続可能な社会」を実現していくための施策を展開しています。

2 環境教育に関する県の取組

1 環境情報の提供と相談対応の推進

■ かながわ環境活動支援コーナー（愛称：かながわエコBOX）の活動

県では、環境団体等の活動を支援し、環境分野に関する相談、情報提供機能を充実強化するため、横浜駅西口の「かながわ県民センター」に、「かながわ環境活動支援コーナー（愛称：かながわエコBOX）」を設置し、「NPO法人かながわアジェンダ推進センター」と協働して運営しています。

このコーナーは、地球温暖化防止活動推進員▼や環境団体等の活動拠点であるとともに、地球温暖化、環境教育など環境分野全般の相談や活動支援、パートナーシップによる取組をコーディネートする窓口としての業務を担っています。また、ホームページを活用した情報提供も行っています。

県民はもとより、企業、NPO、学校などにも気軽に活用していただくことで、「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10（てん）トライ」の「^わ環」が広がり、身近な環境配慮活動が進むことを期待しています。

・ かながわ環境活動支援コーナー（愛称：かながわエコBOX）の概要

- (1) 場所：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター9階
- (2) 電話：045-321-7453（直通）
- (3) E-mail：agendacorner@kccca.jp
- (4) 機能：環境団体等の活動拠点機能、環境分野の情報提供・相談、普及啓発、情報交換・相互交流機能
- (5) 取扱情報：①「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10（てん）トライ」全般、②マイエコ10（てん）宣言受付、③地球温暖化防止活動、④環境教育、⑤環境NGO・NPO関係、⑥その他環境分野全般
- (6) 対象者層：県民、企業、NPO、学校、市町村等、県内全域のあらゆる主体を対象としますが、特に、県民、企業、NPOを重点対象としています。
- (7) 運営：県とNPO法人（かながわアジェンダ推進センター）との協働により運営
- (8) その他：環境に関するイベントや環境活動に対する助成金など、環境に関する様々な情報をホームページから発信しています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ap4/cnt/f70237/>

かながわエコBOX

<https://www.kccca.jp/>

神奈川県地球温暖化防止活動推進センター

検索



2 地域における環境教育の推進

■ こどもエコクラブへの支援

「こどもエコクラブ」は、子どもたちが主体的に環境学習や環境保全に関する活動を行い、人間と環境の関わりについて幅広く関心と理解を深めるための経験を積み重ねながら、環境を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成することを目的に、平成7年6月に環境省の呼びかけでスタートした事業です。

全国の幼児から高校生まで誰でも参加でき、仲間と活動を支える1人以上の大人（サポーター）で構成されています。

各クラブは、メンバーの興味・関心に基づき、自ら活動内容を決めて自主的に行う活動（エコロジカルあくしょん）や自主的に行う活動をより楽しく、豊かなものにするために、全国事務局でデザインした全国のクラブの共通の学習活動（エコロジカルとれーにんぐ）を行っています。

▲表2-9-1 県内クラブ数及び会員数の状況

市町村名	登録クラブ数	登録人数	サポーター人数
横浜市	17 (16)	220 (220)	82 (67)
川崎市	9 (7)	413 (290)	224 (50)
相模原市	24 (7)	51 (22)	38 (10)
横須賀市	3 (3)	29 (41)	12 (20)
平塚市	1 (1)	2 (2)	2 (2)
鎌倉市	2 (2)	37 (39)	10 (10)
藤沢市	3 (3)	143 (140)	69 (74)
小田原市	1 (1)	72 (83)	75 (117)
茅ヶ崎市	2 (2)	17 (14)	4 (5)
逗子市	1 (1)	1 (1)	1 (1)
大和市	1 (1)	19 (36)	5 (5)
座間市	1 (0)	2 (0)	2 (0)
綾瀬市	1 (1)	17 (18)	6 (6)
合計	66 (45)	1023 (906)	530 (367)

※ 令和元年度末の登録数、()内は平成30年度末の登録

■ 環境インターンシップの推進

県では、県内にキャンパスをもつ大学の大学生や大学院生を対象に、環境配慮に取り組む企業における職業体験を通じて、環境保全及び環境問題の解決に必要な意欲及び実践的能力を有する人材を育成する環境インターンシップ事業を行っています。令和元年度は、8大学9名の学生を企業7社に派遣しました。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

神奈川 環境インターンシップ

検索

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ap4/cnt/fl60198/p20329.html>



■ 環境教育・環境活動を実践する人材の育成

県では、環境教育・環境学習を通じて県民の環境課題に対する理解を深め、地域の環境活動を支援するため、環境科学センターにおいて講座を開催しています。令和元年度は、地域で環境教育や環境活動を実践する人材を育成するための人材育成講座として「環境学習リーダー養成講座（受講者：24名）」、「環境活動講座（受講者：106名）」及び「環境スキルアップ講座（受講者：77名）」等を開催し

ました。また、センターを訪れた方に、より環境問題への興味を深めてもらうため、令和元年度に1階に自由見学エリアを整備しました。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

神奈川 環境学習ひろば

検索

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/kankyougakushu/index.html>



3 学校における環境教育の推進

■ 各教科等における環境教育の実施

学校教育においては、「総合的な探究の時間」及び「総合的な学習の時間」をはじめ、各教科、学校の教育活動全体等を通じてさまざまな角度から環境教育を推進しています。

具体的には、幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校等において、幼児・児童・生徒の発達段階に応じ、人々の活動と環境との関わりなどについて、体験を交えたさまざまな学習活動を工夫・実践することにより、子どもたちが環境について理解を深め、環境や環境問題に関心をもつとともに、環境を大切にし、環境保全に配慮した行動がとれるよう努めています。

特に、「総合的な探究の時間」及び「総合的な学習の時間」では、それぞれの地域や学校の特色を生かし、学校周辺の自然観察や環境保全活動、大気や水質の調査、稲作や野菜作りなどの栽培活動、海岸や公園などの美化活動、ビオトープ作りや生物の調査活動などを通して、探究的な学習を重視した多様な教育実践を展開しています。

■ かながわ環境ポスター・標語コンクールの実施

県では、作品制作を通じて地球環境保全、環境美化や3R、野生鳥類保護に対する意識を高めることを目的に、「かながわ地球環境保全ポスター」、「かながわゴミゼロクリーンポスター」、「愛鳥週間用ポスター」、「かながわゴミゼロクリーン標語」の4つのコンクールを実施しています。令和元年度は173校から2,111作品の応募がありました。

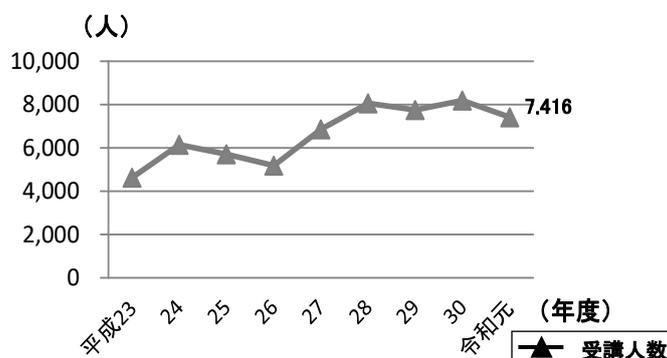
4 環境教育を支援するしくみづくり

■ 環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～*

県では、学校教育を通じて環境・エネルギー等の理解を深め、「自ら考え、行動する人」を育成するため、環境・エネルギー等に関して豊富な知識・経験を有する県内の企業・団体等に、小・中学校、高等学校等で実験等を交えた体験型の授業を実施していただく「環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～」を実施しています。

令和元年度は、92校の小・中学校、高等学校等で実施しました。

*平成25年度に「新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業」から改称



▲図2-9-1 NPO・企業との協働による環境・エネルギー学校派遣事業の受講者数

詳しくは、ホームページをご覧ください。

かながわ環境教室

検索

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ap4/cnt/f160450/>



■ 環境学習映像教材「かながわ環境スクール～見て、考えて、行動しよう！ 私たちの未来のために～」

県では、地球規模の環境問題について、生活に身近なことが影響していることに「気づき」、私たちができることは何か「考える」きっかけとなることを目的として、学校や地域で使用できる環境学習映像教材「かながわ環境スクール～見て、考えて、行動しよう！私たちの未来のために～」(小学生版、中高生版)を作成しました。

本教材は環境計画課ホームページ等で公開しているほか、DVDの貸出やダビングサービスを行い、学校や地域における環境教育を推進しています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

かながわ環境スクール

検索

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ap4/cnt/f160198/p224565.html>



コラム 生まれ変わる「友情の池」

二宮町立一色小学校では、昭和 50 年代に「田んぼ」として整備され、その後「友情の池」と命名された池の整備事業を進めました。平成の時代には、残念ながらあまり子どもたちが親しみをもてる場所ではありませんでした。PTA おやじの会や地域のボランティアの方々の協力で、池が生まれ変わりました。観察台を設置し、しゃがんだり寝転がったりして、水の中もじっくり観察できるようにしました。観察台からじっと池の様子を眺めている子どもたちは興味津々です。



池を観察する子どもたち

今後は、友情の池に人が集まり、学校と保護者、地域が一体となって、水、自然、いのちを大切に作る心が育まれ、人のつながりが生まれることを願っています。

コラム 舞岡川のはぐろトンボ

横浜市立舞岡中学校科学部では、舞岡川の生物や水質についての研究を 2012 年より行っています。毎週 1 回水質調査を行い、水質と生物との関係について考察をしています。

舞岡川周辺で見られるはぐろトンボは、以前はどの河川でも見られるトンボの一種でしたが、河川の水質悪化などのため、横浜市内ではほとんど見られなくなっていました。しかし、下水道や下水処理施設の整備などにより水質が向上し、1995 年に金沢区の侍従川で発見され、舞岡川でも近年多く確認できるようになってきました。



はぐろトンボ

毎年 5 月中旬より 7 月下旬にかけて全校生徒に協力してもらい、登下校中にはぐろトンボを見つけたら学区の地図に赤いシールを貼る生息数調査を行っています。この調査は、大まかな生息数や生息範囲を知ることができ、科学部の貴重なデータとなっています。



生物の調査

科学部ではこの他に、はぐろトンボの個体の追跡調査や縄張り行動の調査、ヤゴや成虫の飼育に向けての研究などを行っています。年による生息数や生息範囲などの変化と、水質や気温、湿度、植物や他の生物との関係について今後も調査していきたいと考えています。

コラム 平瀬川の科学的な水質調査

県立生田高等学校の付近には生田緑地があり、樹林地が多く存在し、訪れる野鳥も多く、昆虫の種類も多いなど自然環境に恵まれています。また、近くに平瀬川（支流）が流れていて、生徒たちは平成 27 年より平瀬川の水質調査を行っています。

その場で水温、濁度及び匂いの 3 項目を測定し、水を採取して学校に持ち帰った後、pH、COD、 PO_4^{3-} 、 NH_4^+ 、 NO_2^- 、 NO_3^- の項目についてパックテストを行いその数値を記録し、データを分析しています。

また、水生植物や微生物の関与による水質への影響を調査するため、平瀬川で一般的に見られるオオカナダモを使った窒素の浄化実験を行ったり、水中の窒素の変化が微生物に関与している可能性があると考え、硝化細菌の有無を測定したりして、科学的な研究を行いながら、環境教育に取り組んでいます。



平瀬川の測定場所